

会 議 録				
平成 20 年度第 8 回 社会教育委員の会議	日 時	平成 21 年 1 月 21 日 (水) 午前 9 時 30 分～11 時 30 分	場 所	小金井市役所第二庁舎 801 会議室
事務局	小金井市教育委員会生涯学習課			
出 席	委 員	井土、伊藤、小林、武田、田尻、田中、彦坂、本川 各委員 (欠席) 浦野、倉持 各委員		
	その他 事務局	尾崎生涯学習課長、林スポーツ振興課長、田中図書館長、中嶋公民館長 木村生涯学習係主事、		
傍聴の可否	◎可 ・ 一部不可 ・ 不可	傍聴者数	0 人	
傍聴不可・一部不可の場合の理由				
次 第				
1. 報告事項				
(1) 東京都市町村社会教育委員連絡協議会交流大会について				
(2) 管外視察研修について				
(3) 平成 20 年度成人の日記念行事について				
(4) 地域参加講座の結果について				
(5) 第 4 6 回東京都公民館研究大会について				
(6) 福島市学習センターの視察研修について				
(7) その他				
2. 協議事項				
(1) 生涯学習推進計画について				
(2) その他				
1. 報告事項				
(1) 東京都市町村社会教育委員連絡協議会交流大会について (田中議長)				
<p>平成 20 年 1 月 22 日、清瀬市民センターで都市社連協交流大会が行われた。第 1 部では、各ブロック研修会についてブロック幹事市より報告があり、第 5 ブロックからは、私、田中が代表で報告を行った。研修会は放課後子どもプランの実施報告がなされ、質疑応答を行った。出席者は、小金井市からは田中、井土、伊藤、小林、彦坂の各委員と、事務局から尾崎課長と木村生涯学習係主事。放課後子どもプランについては、日野市は「ひのっち」という組織があり、放課後子どもプランがそれにマッチしてうまく働いているということもあったが、今後さらに放課後子どもプランをうまく実施していくためには、それぞれいろいろな工夫が必要ではないかという意見が多く出された。</p>				

(2) 管外視察研修について

(小林委員)

平成20年11月26日火曜日に本庁舎からマイクロバスで、社会教育委員7名と事務局から尾崎課長、木村主事が調布市の市民活動支援センター「はばたき」を視察した。視察の経緯は、10月末のブロック研修会の折に調布市の社会教育委員の会議の岡田議長から小金井市よりも調布市のほうが進んでいるので、一度いらしてはどうかという話があり、ぜひ視察をさせていただきたいということで、この日にちに決まった。視察した「はばたき」は調布市国領にあって、調布市の開発と合わせて支援センターがビルに入っている。調布市からは、岡田議長、社会教育課の福沢係長、また市民活動支援センターの金子さん、小林さんも同席。こちらからも様々な質問をさせていただき、最後に資料を各自いただいた。この資料の中で興味深かったのは、サークルガイドブックと市民活動団体リストが同じ冊子に掲載されており、これですべての団体がよくわかる。「えんがわファンD」という市民活動団体助成事業があり、小金井市よりも市民活動に対して大変積極的な支援をされているのではないかと。

(3) 平成20年度成人の日記念行事について

(尾崎生涯学習課長)

平成21年1月12日(祝)に中央大学附属高校の講堂で成人式が行われた。午前10時半開場、午前11時からの式典で始まった。最初に、貫井囃子の演技、その後来賓あいさつ、紹介、そして新成人のことは、閉会となり、閉会后、FC東京からの成人の方へビデオでの応援メッセージ、抽選会を行った。今年度の成人の対象者は1,339名。当日の参加者人数は男性が341名、女性が354名(いずれも外国人、市内、市外を含む)。合計695名で、参加率は52%。ここ二、三年は50%を上回らなかったが、ことしは例年より多くの参加があった。当日は大きなトラブルもなく、すばらしい式典が行われた。社会教育委員さんにもご参加いただいたので、もしご感想があればいただきたい。

(本川委員)

ご紹介の中で、来賓の紹介が役職だけであったが、去年もそうか。

(尾崎生涯学習課長)

例年、役職だけを発表させていただくという形になっている。

(委員)

檀上の方も役職だけか。

(尾崎生涯学習課長)

檀上の方は、司会進行表に基づき、名前は呼ぶようになっている。

(4) 地域参加講座の結果について

(尾崎生涯学習課長)

平成20年度後期の講座である。第1回目が平成20年11月1日の土曜日から第6回が12月6日の6回の講座。内容的は、基本的には前期のものとはほぼ同じである。第6回目の懇親会では、NPO法人、市民団体と参加者との出会いの集いを開いている。ここが若干前回とは違うところである。参加者人数は、第1回が14名、第2回が11名、第3回が12名、第4回が18名、第5回が10名。最後に受講者と団体との出会いの集いが、団体の参加者も含めて、男性が46名、女性が8名、計54名の参加。この講座の延べ参加人数は119名。内容は、カリキュラムのとおり。今後、どういう形で地域に参加し、活躍していただけるかという課題が残っているところであるが、OB会等を開催したり、第6回目のNPO法人や活躍している団体との集いの場で、新たな地域での出発の場所を見つけられる方もいるかと思う。定期的に調査は行っていないので、今後、その辺が課題。

(田中議長)

参加者の中で、実際まだ仕事を持っている方はどのぐらいいるのか。

(尾崎生涯学習課長)

団塊の世代の方たちはまだ現役という方が非常に多い。そういう部分で、この時期に団塊の世代を集めるというのは、どこの市町村も非常に苦労しているところである。団塊の世代の方が地域に戻ってくるには、まだ少し時間がかかると考えている。

(田中議長)

この講座は今後も続けていくのか。

(尾崎生涯学習課長)

今後しばらくの課題と考えており、団塊の世代が地域で活躍する時期になるまでは続けていく必要があるというのと、逆に言えば、これからの事業かと思っている。

(小林委員)

初回にアンケートをとっているが、どんな内容なのか。参加者に対して最後に感想や要望などアンケートはとらなかったのか。その分析をいただければありがたい。

(尾崎生涯学習課長)

アンケートの内容は確認していない。最終的なまとめができていないので、でき次第、報告させていただく。

(伊藤委員)

定年間際になって不安に思うことは、これからの自分の経済的な生活設計をどうしたらいいのかということ。本来ならば、職場にいる間に、準備のための講座を開設していかないと、60になってからでは遅い。ファイナンシャルプラン、経済設計、自分の家庭設計、健康管理等、退職に当たっていろいろな手続がある。講座へ参加される方というのは、そういう準備が既にでき上がっていて、では地域で何かやりましようという気持ちの方だろう。第二の人生をどうしようかという人に向かって、市として何かやってあげるのであれば、もう一歩前の40代からの準備が必要。企業とか職場でまずは取り組まないといけない。それに対して、行政がどういうふうサポート

していくかというようなことも必要。もうちょっと前から段取りをするような方向で行政のほうも地域の職場に対して働きかけをしてはどうか。

(彦坂委員)

生涯教育に根底的につながっていると思う。定年後じゃなくて、人生の総仕上げに何をやるのかということ、最終的な仕上げという意味で、本来、生き方の最終仕上げをするのが生涯教育であり、社会教育にもつながると思う。

(田中議長)

小金井にいる会社の人たち、あるいはいろいろなところで働いている人たちも若いときから参加していただく。実際に、お金のこと、退職金のこと、保険のこと等、手続が煩雑である。次の生活設計が狂ってしまう可能性もあるので、確かにそういうところをきちんと教えていただければ楽になる。ますますこのカリキュラムを充実させていただきたい。

(本川委員)

参加者が1回10名前後で、ほとんど男性。「定年後の〇〇」というと、男性対象に限られてしまう。企業は、社員と伴侶というようなペアでこういう講座をしている。実際に定年というと、今は女性もキャリアで働いていらっしゃる方が多いが、男性だけではなく、伴侶の女性も含めて考えてはどうか。奥さんに引っ張られて参加者が増えてくれれば、なおいい。

(伊藤委員)

このような講座はご夫婦で参加が基本である。

(尾崎生涯学習)

女性の参加もある。講座をやると、通常中高年の方だと、女性の方の参加者がほとんどだが、そういう意味では、参加された女性の方が、男性が多いことにちょっと驚かされていることもあった。講座をやっても、男性の参加が非常に難しいという部分もあって、そういう意味では特徴のある講座にもなっているのかと思う。大勢の方に参加していただきながら、地域づくりにつながっていけばと思い、今後の課題にしたい。

(井土副議長)

定年後の夫婦で参加というようなことを書くと、男性だけじゃなくて、夫婦で来る。女同士はすぐ友達になれるけれども、男の人はなかなか友達になり切れないので、女性が来ると座がやわらかくなったり、連絡がうまくいったりすることがある。内容も、もっと広く、介護の関係など身近な講座なものだと参加しやすい。

(尾崎生涯学習課長)

2月に企画・運営をしてもらっている団体と講座について、今後に向けての話し合いをするので、講座の中身等を再度研究してまいりたい。

(5) 第46回東京都公民館研究大会について

(中嶋公民館長)

12月14日（日）午前10時から午後4時30分、まちだ中央公民館など市内4館で開催された。大会テーマは、「地域と歩む公民館」と題して、これからの公民館のあり方を考えるとともに、人間性を高め、地域を豊かに発展させようという人々をつなぐ拠点である公民館を見詰め直す機会として開催された。従来、全体会を開催して課題別集会を行ってきたが、町田市の施設の状況から全体会をなくし、課題別集会を終えた後に報告集会を午後3時30分から4時30分に行うこととなった。課題別集会も5つと少なくなったが、参加申し込み354名、課題別集会の参加者303名。第1課題別集会は、「暮らしに生きる公民館～学び合う、つながり合う条件を探る～」第2課題別集会は、「講座を企画する目的」第3課題別集会は、「公民館を拠点とした地域づくり～市民団体との協働～」第4課題別集会は、「みんなが地域の主役です～外国人、ひきこもり、不登校、ニートと公民館～」第5課題別集会が「若者へのまなざしと子育て支援」課題別集会後、中央公民館7階ホールで、収容人数の制限から166名で報告集会をとり行い、来賓あいさつとして、町田市山田教育長、東京都生涯学習課長代理小堀係長。最後に、次期大会事務局となる小金井市から公民館運営審議会大橋委員長のあいさつで終了した。本年12月、小金井市が大会事務局市として開催するので、それに向けて対応していきたい。

（伊藤委員）

小金井市は大会事務局を担当したばかりではなかったか。

（中嶋公民館長）

3年前に開催したがその後、市政施行順に実施することになり、そのためまた順番が来る。本年の12月中旬ごろを予定している。前回は第二中学校の体育館で全体会をやったが、極力研究・研修に重点を置いた方向で、書面やホームページ等により統一テーマの趣旨を周知徹底するような方向等でやっていきたい。

（6）福島市学習センターの視察研修について

（中嶋公民館長）

視察は1月14日（水）午後1時30分から4時50分。公民館本館で、飯坂学習センターの副主査、清水学習センターと西学習センターの主事3名が来訪。「月刊こうみんかん」8月号で、本市の公民館紹介の中のITサポートセンターに着目され、視察地として選ばれた。当日、ITサポートセンターの「パソコン何でも相談」を開催していたので、見学をしながら会長から約1時間説明をした。事務室で概要について私が1時間程度説明をし、後に緑センター施設見学、市内見学ということで車中からの案内をした。入門のパソコン講座をより発展させるにはどのようにすればいいのかということの研究のために来たということで、本市の公民館でITサポートセンターを開設してきた経過等を説明し、大変に有意義であったということである。なお、福島市は、平成17年に公民館から学習センターに名称変更した。公民館条例を廃止し、学習センター条例を策定したのであるが、条例等を見ると、社会教育法20条の

目的としてということで公民館機能であることの変更はなかった。現在、民間委託化として1館を試行。今後、5館ずつ民間委託化する計画が進められている。なお、学習センターはすべて図書館を併設しており、16学習センターと7の分館がある。

(田中議長)

小金井市のITサポートセンターというのは、平常はあいているか。

(中嶋公民館長)

日曜日と水曜日、毎週午後1時から3時ということで、現在貫井南センター、本館、緑センター、本町分館で開設している。21年度に最後の1館、東センターに開設して、公民館全館にITサポートセンターが開設される。ITボランティアは、市民の方々であり、有償ボランティアとして協力で全館体制でやっていく。

(7) その他

・第5回野川駅伝大会について

(林スポーツ振興課長)

平成21年1月18日に都立武蔵野公園で開催した。この事業は、東京都市長会の多摩島しょ子ども体験塾助成金、この予算を利用して、NPO法人黄金井倶楽部に委託して実施した。参加チーム数は、今年の53チームと比べて、77チームと大幅に増えた。参加者数も378人から605人となった。なお、参加者数は、補欠の選手も含めた人数。同時に小金井消防署による防災訓練を開催し、駅伝の参加者の中から多くの中学生が参加した。詳細は資料をごらんいただきたい。

(田中議長)

第5回ということは、5年前からやっているのか。

(林スポーツ振興課長)

野川駅伝大会は、最初は黄金井倶楽部の自主事業として行っていた。3回までは自主事業として実施し、教育委員会は後援する形だったが、第4回、第5回は、多摩島しょ体験塾の予算を利用し開催している。なお、21年度は、市の主催事業として位置づけることになったので、21年度からは一般予算で行うため、次回報告するときは、「多摩島しょ子ども体験塾」という部分はなくなった形で報告の資料を出す。

(武田委員)

防災訓練に300名ほど参加したと書いてあるが、防災訓練は今年からか。

(林スポーツ振興課長)

昨年から行っているが、今回、場所が武蔵野公園の中の第二調池になった。昨年は武蔵野公園くじら山周辺でAEDの訓練だけだったが、今年はAED、放水、けが人の三角巾の巻き方、地震で家が崩れたときの救助の仕方など、かなり大がかりな形で実施した。事前に消防署と打ち合わせをしながらこのような形をとったが、駅伝大会は小学生4年生以下、5・6年生…の順に行っていくので、小学生は開会式を8時半に行った後、スタートまで時間があるため中学生を対象に開いた。

(武田委員)

今、教育委員会でも、中学生を中心にした社会貢献活動を実施しているので、駅伝大会と併用してやるというのは良い。中学校で防災訓練をやっているところもあると聞いているが、地域から集まった小中学生を対象に駅伝とともに時間を利用して防災訓練をやるのは非常にいい取り組みだ。ぜひ続けていただきたい。

2. 協議事項

(1) 第2次小金井市生涯学習推進計画について

(尾崎生涯学習課長)

前回11月12日の小委員会でご協議いただいた後、修正をかけ、各課で再度確認した。数値的に示せるものは数値で示してほしいという意見等もあったので、数字を入れられるところについては入れている。その結果を受け、昨年12月2日からことしの1月5日まで市民向けにパブリックコメントを実施。その結果、意見は1件もなかったことから、最終的な案としてほぼ決定しつつある。実際の施策の内容と事業内容等については、11月12日以降、再度各課に確認し、言葉の整理、事業内容の表現の変更等を含めて変更している。また、社会教育委員のご指摘があった数値の表についても、載せられる範囲で載せる方向でまとめている。何かご意見等あれば、今月中にメール、電話等で、お寄せいただきたい。

(田中議長)

今後のタイムスケジュールはどうなっているのか。3月には上程するのか。

(尾崎生涯学習課長)

議会が2月にあるので、そこで出すかどうか検討中である。

(本川委員)

技術的なことかと思うが、下があいているところがある。余白の使い方をどうお考えか。69ページで、前回より20ページほど増えてしまっているから、どうなっているのか。また、施策体系の表の標記が統一されていないようなので、統一したほうが良い。また、こんなに細かく見方というのを出したほうがいいのか。第何章ぐらいの冒頭だけでもいいような気もするが。

(尾崎生涯学習課長)

空欄は、カット等を入れることを検討している。施策の体系の表が、前と後ろで違う部分があるというご指摘であるが、前の表と合わせる形で統一する。

(田中議長)

矢印の説明等については、最初だけというのは不親切な気もしないでもないが、これをとることによってうまくまとまるのであれば、そうしたほうがいいのかも。資料との関係があると思うので、その辺をうまくやっていただけるとよい。

(尾崎生涯学習課長)

ページ数の関係もあるので、全体的なバランス等も考えながら検討する。

(2) その他

・陳情文書について

(林スポーツ振興課長)

経過からお話しする。資料でお配りした陳情書が議会に提出され、行財政改革調査特別委員会に付託された。平成20年11月12日の委員会で審査されたが、この陳情項目、裏面に①から⑥まであって、こちらに関係する部分が陳情項目④小金井市のスポーツ振興を総合的かつ体系的に進めるために、市・市教委・財団法人小金井市体育協会・体指協（体育指導委員協議会）、黄金井倶楽部、学識経験者・公募市民などによる（仮称）小金井市スポーツ振興審議会を設置すべきである、⑤小金井市のスポーツ振興を総合的かつ体系的に進めるために、前項で設置される審議会で内容を検討し、（仮称）小金井市スポーツ振興条例を制定すべきである、という点。

これに関する市側の答弁としては、スポーツ振興審議会については、スポーツ振興法第18条第2項に、市町村にスポーツの振興に関する審議会その他の合議制の機関を置くことができる。第3項では、その役割として、市町村の教育委員会の諮問に応じてスポーツの振興に関する重要事項について調査、審議し、及びこれらの事項に関して市町村の教育委員会に建議する。また、第4項では、スポーツ振興審議会等の委員は、スポーツに関する学識経験のある者及び関係行政機関の職員の中から教育委員会が任命すると規定されている。なお、東京26市では、10市が設置しており、16市が未設置という状況。スポーツ振興計画についての検討、施設の使用料金、施設管理のあり方などの諮問事項、その他は事業の報告等の報告事項が開催内容となっている。市側としては、スポーツ振興審議会の設置については、スポーツ振興についての諮問、会議等については、社会教育委員の会議で行うこととし、今後の検討課題としたいと考えているという答弁になっている。

陳情項目⑤については、スポーツ振興条例の制定とあるが、スポーツ振興条例は全国的にもほとんど例のない形なので、今後の検討課題としたいという答弁になっている。この答弁を受け、行財政改革調査特別委員会の委員の中から、社会教育委員の会議で意見を聞くようにと要請されているので、ご意見をいただければと考えている。

(伊藤委員)

小金井市の体育協会というのがあるが、体育協会というのは小金井市のスポーツの振興について総合的・体系的に考えているものではないのか。団体が集まって一つの連合会をつくっているだけのことなのか。

(田中議長)

そうではないはずである。市民の健康やスポーツ振興を行うための団体。市の業務委託も多い。したがって、市の考え方もかなり投影されて行われていると考える。

(伊藤委員)

仮にスポーツ振興審議会が設置されたとして、ここの審議会がいろいろな年度計画をたてるのか。審議会の性格は。

(林スポーツ振興課長)

基本的に諮問機関ということになるので、建議もするが、諮問に応じて意見を述べるという役割が主になると思う。他市の例では、委員会があっても議題がないとか、報告事項ばかりになってしまい、19年度は1回、20年度は、去年の11月時点では開催していない、というような状況もあった。スポーツ振興の関係についても、小金井市の場合は生涯学習計画のほうにも組み込んでいる。そういった意味でも必要がある場合は社会教育委員の会議等で扱っていただけたらと答弁している。

(伊藤委員)

スポーツ振興を総合的かつ体系的に進めるための検討等というのは、体協がやるということではだめなのか。現時点では総合的・体系的な連携は取れていないのか。

(林スポーツ振興課長)

教育委員会、主に我々スポーツ振興課と、体育協会、体育指導委員協議会、黄金井倶楽部の4者というのは、事業の関係で連携して行っている部分がかかなりある。それぞれの事業について、その都度どこかが主体になる形になり、4者が全く同じ役割でかかわるといってないにしても、この中の2者、3者が相談しながら行う事業というのはかなりある。体育協会と黄金井倶楽部については、市のほうから活動の補助金を出しているし、先ほどの野川駅伝は黄金井倶楽部への委託事業であるが、体育協会の委託事業もかなりの数行っている。ただ委託するのではなくて、企画する段階からお互いに打ち合わせしながら、来年度はこういう形でこんな規模でやろうということ調整した上で委託しており、連携をとる形は位置づけられていると考えている。

(田中議長)

小金井市にはスポーツ振興に関する条例というか、スポーツを振興して健康を増進しようという趣旨の条例のようなものがあるのか。

(林スポーツ振興課長)

条例という形のものはない。市の基本計画等の計画関係のスポーツ振興の部分に市の方針があり、その施策方針に従って事業を行うことになる。

(田尻委員)

今のスポーツ振興の現状はどうなっているか、その現状を踏まえ、スポーツ振興の課題がどうなっているのか。その課題を解決するためにこの審議会が必要なのかどうか。その辺がわかれば、意見は出せる。また、他市で10市が設置しているという話だったが、効果的に審議会が運営されているのであればそれも教えていただきたい。

(林スポーツ振興課長)

多岐にわたるので、準備ができ次第、資料をお出ししたい。

- ・ 三者懇談会について

(中嶋公民館長)

社会教育委員の会議、公民館運営審議会、図書館協議会の委員との三者懇談会であ

るが、今年度は3月27日（金曜日）午後1時から2時45分に公民館本館学習室A・Bで開催したい。なお、文書については、生涯学習部長名で公民館、図書館等のほうに来た後、各委員各位へ発信する。

（田中議長）

社会教育と教育委員会の懇談会は3月か。

（木村生涯学習課主事）

その年度によって時期が異なる。

（田中議長）

4月に入ってからの方がいいかもしれない。教育委員との懇談会は来年度ということで、関係各所に伺ってから。とりあえず3月は三者懇談会ということになる。

以上